

アウト・オブ・民藝

「民」から芽づる編 MINGEIのB面！
会場・生活工房ギャラリー（三軒茶屋駅直結・キャロットタワー3階）

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

画像①メインビジュアル

みんげい〔民藝〕(名) ①民衆藝術。②民俗藝術。

民衆(名) 一般の人民。多く
 みる。しゅう民衆(名) 世間一般の人民。多く
 の民。プロレタリア。大衆。
 (名) 民衆に同化する。民衆の物事になること。
 ーいじじゅう民衆藝術(名) 一般民衆の
 作り出した藝術作品。名のある藝術家の作にかからぬ
 作品。民藝。一部の特権有階級に獨占されてある
 藝術を、一般民衆のものたしめんとて生み
 た藝術。ーころから民衆娛樂(名) 廣く一般の
 人人に理解し享樂せられる娛樂。ーてき民衆
 的(名) 民衆に關係あること。

民衆藝術

みんなかん〔民間〕(名) 人民の社會。普通人の社會。
坊間。(官府の對)

みんなさんでんしょう(民間傳承)(名) 古來上流社會にあらざる庶民間に、歴史の記述の外にあつて、傳來した種種の習俗・口碑・心理等をいふ。

大震災の直後に渡歐の旅立ちをした私の見聞に關する限りでは、民俗學といふ言葉は未だなくて郷土研究といふ言葉が一般的に用ひられ、また、民藝と言はないで農民美術と言ふのが普通であつた。

鄉土研究

森口多里『民俗と藝術』序文（1942）

民俗藝術

みんぞく民俗 (名) 人民の風俗。民間のならはし。
しーがく民俗学 (名) (Folklore) 民間に傳はた風俗習慣、傳説、心意、信仰等を科學的に研究する學問。民間傳承論。
藝術 (名) 民間に傳はり、民間の手になる即ち民俗學的の藝術。郷土藝術も同じ意に用ひられる。

鄉土藝術

のうみん（農民）
 ①「いじゅつ」農藝に従事する民。百姓。
 農民文學。②「美」農民美術。
 ③「社」農民の階級を形成する層。大農、中農、小農、貧農、農業労働者等。
 ④「いじゅつ」農民美術。
 ⑤「美」農民の製作した工芸品。木竹、革等の細工物及び陶磁器類で、素朴で郷土的色彩を特徴とする。

農民美術

みんが。『民芸』庶民の生活の中から生まれた、郷土的な工芸。実用性と素材の美しさが愛好される。民衆的工芸。大正末期、柳宗悦と名の造語。『うらんどら』民芸運動。一日用の雑器に美的価値を見出し活用しようとする運動。大正末期から、柳宗悦、河井寛次郎、浜田信司らが提唱。推進した。『うらんどら』庶民の生活から生まれた、地方色豊かな手工芸品。

『広辞苑 第七版』
(2018)より

みんなぞく〔民族〕(名) 人種を地理學的・文化的に

ち舊俗語等に對して區分したものである。うんどう(民族運動)一名「政國」を異にして散在する同一民族が、互に合體して一大民族國家を建設せんとする運動。また他民族の國家に壓迫されてある少數民族が、その壓迫を脱して獨立せんとする運動。――「**民族學**」一名「**社**」(Ethnology)一般來科學の原始的な生活とするある民族の文化の全貌を、科學的に研究しようとする學問。一國內の舊習遺風を研究する民俗學(Ethnology)と似てゐるが、對象を異にしてゐる。土俗學。

民族學

みん・よう（民謡）民謡（名）民族の歌謡。民衆の間に生じ、自然に洗煉されてその生活・感情を素朴に反映した歌謡。これを田植歌・草取歌・禾揚歌・桑摘歌・茶摘歌・馬子歌・舟歌等の如く、ある種の労働に統一とリズムを與へる労働歌、新婚式歌・新築歌・祭禮歌・大漁節の如き祝賀歌及び舞踏に附隨する踊歌に分け、これに手鞠歌子守歌等を含すればその數は幾百千に達する。現今は、廣く地方色を帯びた新作歌謡をも含めていふ。

民
謠

へいみん〔平民〕(名) ①官位なき普通の人民。

平民工藝

げて、もの「下手物」(名)【美】みんしゅうげい
 じゅつ(民衆藝術)。みんげい(民藝)。

上記「民藝」「げてももの」という語を最初にとりあげた『辞苑』(1930)より 民藝＝民衆的工藝とは書かれていない。

2024.4.29 MON 8.25 SUN 主催：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会
9:00-21:00 入場無料 月曜休み（祝・休日は除く）

本事業に関するお問い合わせ: 生活工房 石山 (広報担当)、齋藤 (事業担当)

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー

TEL / 03-5432-1543 Email / info@setagaya-ldc.net

主催：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

世田谷文化・生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

1. 展覧会概要

1924年4月（ちょうど100年前）、柳^{やなぎむねよし}宗悦は関東大震災を機に京都へ引越し、河井^{かわい かんじろう}寛次郎や濱田^{はまたしやうじ}庄司と仲良しになっていました。一緒になって朝市で丹波の古布を漁ったり、民間信仰に根ざした木喰^{もくじきぶつ}仏の調査をしていました。そして、1925年12月、紀州の木喰調査の道中で「民藝（民衆的工藝）」という言葉を生み出します。その当時、主に農村や漁村で暮らす人々に向けられた「民」という文字は、民藝に限らず、一般に流布していた民衆藝術、民俗藝術、民謡をはじめ、ウィリアム・モリスの『民衆の芸術』（原題：The Art of the People）、柳田^{やなぎたけお}國男の民俗学、富本^{とみもとけんきち}憲吉の民間芸術、山本^{やまもとかなえ}鼎の農民美術運動、今和^{こんわ じろう}次郎の平木工芸などさまざまな場面に登場してきます。そのため、それらの言説のなかで民芸品、民具、郷土玩具、農民美術などに向けられる眼差しも複雑に絡み合っています。いったい彼らは「民」に何を見出していたのでしょうか。

本展では、『アウト・オブ・民藝*』の著者であるデザイナーの軸原ヨウスケと美術家の中村裕太が、柳らが夢中になって民芸品を蒐集していた黎明期の民藝運動と、今日のライフスタイルとしての「MINGEI」との食い合わせを「民」という文字からひも解いていきます。会場では、主に1910年代から40年代の新聞や雑誌などの出版物をはじめ、彼らの日記や書簡などを時間軸に沿わせた「アウト・オブ・民藝の芋蔓年表」を設えます。そうした「民」にまつわる文献や物品を芋蔓^{いもづ}っていくことで、「MINGEI」とはひと味違ったB面！を掘り起こしていきます。

アウト・オブ・民藝とは

「アウト・オブ・民藝」とは、デザイナーの軸原ヨウスケと美術家の中村裕太が展開している活動。リサーチの対象となるのは、民藝運動発足当時に起きていたさまざまな工芸運動、それらにまつわる人、物、出版社などのネットワーク。《民藝》に分類されるものとされないものの境界を、資料を丹念に読み解き、相関図として可視化するなどの手法で探究し、民藝運動とその周縁を多角的かつ複層的に描き出してきた。

本企画では生活工房とタッグを組み、社会変動の激しかった民藝運動草創期に焦点を当て、民衆の暮らしや新聞、雑誌の記事などから《民藝》の受容と広がりを立体的に検証する。

【展示実績】

2018年 「アウト・オブ・民藝」 誠光社、京都

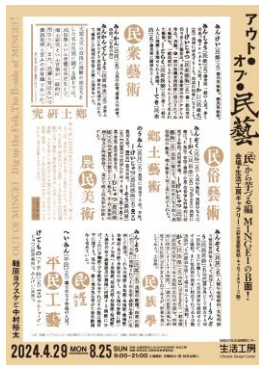
2019年 「アウト・オブ・民藝」 栞日、長野／「アウト・オブ・民藝 | 玩具編 |」 READAN DEAT、広島

2020年 「秋田雪橇編 タウトと勝平」 秋田公立美術大学ギャラリーBIYONG POINT、秋田

「東京物欲編 百貨店と趣味の店」 日本橋高島屋、東京

2021年 「関西青春編 下手ものへの眼差し」 大阪日本民芸館、大阪／「ロマンチック仮説編」誠光社、京都

2022年 「東北へのまなざし 1930-1945」 岩手県立美術館、福島県立美術館、東京ステーションギャラリー



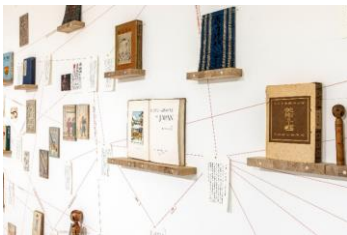
画像①

「アウト・オブ・民藝」
「民」から芽づる編 MINGEI の B 面！」
メインビジュアル



画像②

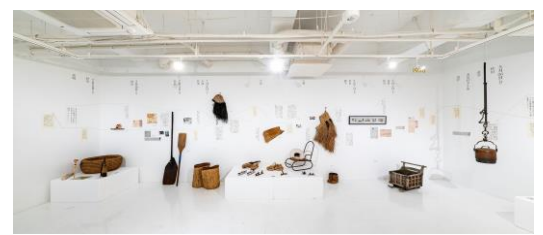
『アウト・オブ・民藝』
2019 誠光社



画像③



画像④



画像⑤



画像⑥



画像⑦



画像⑧



画像⑨



画像⑩



画像⑪



画像⑫



画像⑬



画像⑭

③～⑫ 「アウト・オブ・民藝」 秋田雪橇編 タウトと勝平」（2020、秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT）展示風景
写真：草薙 裕

⑬、⑭ 「〇〇〇・〇〇・民藝」 関西青春編 下手物への眼差し」（2021、大阪日本民芸館）展示風景
写真：来田 猛

2. みどころ

- ① アウト・オブ・民藝は、気鋭のデザイナーと美術家のユニットが「民藝」の周辺をめぐるリサーチ活動。
- ② 「民藝運動」の黎明期と、今日のライフスタイルとしての「MINGEI」との食い合わせを、「民」という文字から芋づる式に掘り起こし、民の暮らしと「民藝」の関わりをひも解いていく。
- ③ これまでの「人物相関図」を立体的に可視化する手法を、今回は時間軸に沿わせた立体年表として展開。
- ④ 2024 年は民藝運動の 3 人（柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司）が仲良くなって 100 年。
- ⑤ 世田谷美術館の企画展「民藝 MINGEI — 美は暮らしのなかにある」（4 月 24 日－6 月 30 日）と同時期に開催。合わせて観覧すれば「民藝」の多様な魅力を味わえる。

3. 関連イベント

アウト・オブ・民藝のなかよしトーク（一般公開型プレス内覧会）

一般公開に先立ち、本展を手がけた軸原ヨウスケと中村裕太が「民」という言葉からお互いにどのような文献を芋蔓ってきたのかを仲良く語り合います。

2024 年 4 月 28 日（日）15 時～16 時 30 分

【講師】軸原ヨウスケ（デザイナー）、中村裕太（美術家）

【会場】生活工房ギャラリー

【参加費】無料 【定員】40 名 【申込】7 ページ参照（一般の方は申込不要、直接会場へ）

アウト・オブ・民藝の芋蔓まつり

「民藝の 100 年」展（東京国立近代美術館、2021 年）を企画された花井久穂^{はな い ひさ ほ}さんとのトーク、田口史人^{た ぐちふみひと}さんによるレコードで聴く「民（衆）」とは？、京都の焙煎家オオヤミノルさんのコーヒーを飲みながら、「アウト・オブ・民藝」が掘り起こした芋々を味わいます。

2024 年 6 月 15（土）13 時～18 時

【講師】花井久穂（東京国立近代美術館主任研究員）、田口史人（リクロ舎）、
オオヤミノル（オオヤコーヒ焙煎所）、軸原ヨウスケと中村裕太

【会場】生活工房ギャラリー及びワークショップルーム A B 【参加費】500 円（ドリンク代別）

【定員】70 名（申込先着） 【申込】4 月 25 日 10 時より生活工房 Web サイトにて

ブリッジトーク「アウト・オブ・民藝 vs 新しい骨董」

9 月 3 日から生活工房にて展覧会を開催する山下陽光^{やました ひかる}さん（リメイクブランド「途中でやめる」主宰）、
「新しい骨董」のグループメイト下道基行^{したみちもと ゆき}さん（オンライン参加）をお招きし、アウト・オブ・民藝から新しい骨董へと芋蔓ります。

2024 年 8 月 25 日（日）14 時～16 時

【講師】新しい骨董（下道基行、山下陽光）、アウト・オブ・民藝（軸原ヨウスケと中村裕太）

【会場】生活工房ギャラリー及びセミナールーム A B 【参加費】500 円 【定員】100 名（申込先着）

【申込】7 月 25 日 10 時より生活工房 Web サイトにて

企画制作者プロフィール

軸原ヨウスケ（じくはら ようすけ）

1978年生まれ。岡山在住。フリーランスとしてデザインを始めた後、栗津デザイン室を経て2006年、(株)オンチュウ設立。「遊び」をテーマにしたデザインユニット「COCHAE」（2003年～）のメンバーとして活動。2008～2012年京都造形芸術大学こども芸術学科非常勤講師。2015年、新型こけし、創生玩具、関連グッズ等のデザインプロダクトブランド「ドンタク玩具社」を立ち上げ、伝統こけしや郷土玩具などの作り手である“工人さんと共に考え、共に作る”をテーマに、従来の郷土玩具の「新しいかたち」を提案。「岡山名物きびだんご」（山方永寿堂）などのパッケージデザイン、出版企画や商品開発など幅広く活動している。

業績に折り紙パズル「ファニーフェイスカード」が日本グッドデザイン賞（Gマーク）2008受賞、『猫のバラバラブックス』（青幻舎）で第47回造本装幀コンクール2013審査員奨励賞受賞、『トントン紙ずもう』（コクヨ WORK×CREATE）が「グッド・トイ2013」選定、『タングラムちゃん』（hello-toys、2015年）がキッズデザイン賞受賞。アジアの優れたパッケージデザインに贈られるTOP AWARDS ASIAを2015年「YAMA COFFEE」（ONSAYA）、2017年風呂敷「ねこむすび」（ベネッセアートハウス）、「ぶらさがりコチャエ」（山田繊維）で受賞など。

著書に『kokeshi book—伝統こけしのデザイナー』（青幻舎、2010年）、『武井武雄のこけし』（PIE International、2012年）、『日本のおもちゃ絵—絵師・川崎巨泉の玩具帖—』（青幻舎、2014年）、『アウト・オブ・民藝』（共著、誠光社、2019年）、『アウト・オブ・民藝 | ロマンチックなまなざし』（共著、誠光社、2022年）など。

生活工房では「cochaeの『紙 nication!!!』」展（2009年）、「日本のポータブル・レコード・プレイヤー展」（2016年）の企画制作、「祈りのデザイン ミキノクチ」展（2010年）のグラフィックデザインを手がけた。

中村裕太（なかむら ゆうた）

1983年東京生まれ、京都在住。2011年京都精華大学博士後期課程修了。博士(芸術)。京都精華大学芸術学部准教授。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。文献調査やフィールドワークによる観察をもとに仮説を積み上げ、自らの手で実験した造形物を通して、近代以降の周縁的な工芸文化を考察していく。近年の展示に「耽奇展覧」（ギャラリー小柳、2023年）、「第17回イスタンブール・ビエンナーレ」（パリン・ハン、2022年）、「眼で聴き、耳で見る | 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」（京都国立近代美術館、2022年）、「万物資生 | 中村裕太は、資生堂と を調合する」（資生堂ギャラリー、2022年）、「『新しい成長』の提起」（東京藝術大学大学美術館、2021年）、「丸い柿、干した柿」（高松市美術館、2021年）、「ツボ_ノ_ナカ_ハ_ナンダロナ?」（京都国立近代美術館、2020年）、「in number, new world / 四海の数」（芦屋市立美術博物館、2019年）、「表現の生態系 | 世界との関係をつくりかえる」（アーツ前橋、2019年）、「MAM リサーチ 007: 走泥社—現代陶芸のはじまりに」（森美術館、2019年）、「日本ラインの石、岐阜チョウの道」（美濃加茂市民ミュージアム、2018年）、「柳まつり小柳まつり」（ギャラリー小柳、2017年）、「あいちトリエンナーレ」（愛知県美術館、2016年）、「第20回シドニー・ビエンナーレ」（キャリッジワークス、2016年）、「第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」（ギャラリー・オブ・モダン・アート、2015年）、「六本木クロッシング2013展：アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」（森美術館、2013年）など。

著書に『アウト・オブ・民藝』（共著、誠光社、2019年）、『アウト・オブ・民藝 | ロマンチックなまなざし』（共著、誠光社、2022年）。

4. 展覧会情報

タイトル	アウト・オブ・民藝 「民」 ^{みん} から芋づる編 MINGEI の B 面！
会 期	2024 年 4 月 29 日（月・祝）～8 月 25 日（日） 9:00～21:00 月曜休み（祝・休日は開館）
会 場	世田谷文化生活情報センター3 階 生活工房ギャラリー 東京都世田谷区太子堂 4 - 1 - 1 キャロットタワー内
料 金	入場無料
交通案内	東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅直結 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば
主 催	公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
企画制作	軸原ヨウスケと中村裕太
後 援	世田谷区、世田谷区教育委員会

展覧会概要 Short version

『アウト・オブ・民藝』の著者・軸原ヨウスケと中村裕太が、柳宗悦らの民藝運動の黎明期と、今日のライフスタイルとしての「MINGEI」との食い合わせを、「民」^{みん}という文字から芋づる^{いもづる}していきます。会場には、民藝運動とその周縁の人々や、様々な工芸運動にまつわる雑誌、新聞、日記や書簡などを時間軸に沿わせた「アウト・オブ・民藝の芋蔓年表」を設え、「MINGEI」とひと味違った B 面！を掘り起こします。

広報用画像の貸し出しについて

広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は貸出条件をご確認いただき、下記①～⑨の必要事項を明記のうえ、Eメールにてお申し込みください。

なお、本企画の紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正原稿をお送りください。また、掲載後、掲載誌、URL等を広報担当宛てにお送りいただきますようお願い申し上げます。

【貸出条件】

- ◆画像は本企画紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。

【必要事項】

- ① 媒体名（雑誌名／番組名／WEBサイト名ほか）
- ② 媒体種別（新聞／雑誌／フリーペーパー／テレビ／ラジオ／WEBサイトほか）
- ③ 発売・放送・更新予定日
- ④ 御社名
- ⑤ ご担当者名
- ⑥ 御社住所
- ⑦ Eメールアドレス
- ⑧ 電話番号
- ⑨ ご希望の画像番号

プレス向け内覧会（4月28日）参加のお申し込みについて

- ① 参加者全員のお名前
- ② ご所属名
- ③ お電話番号
- ④ 個別取材希望の有無

上記内容をご記入の上、4月23日(火)までに下記へお送りください。
受付後、担当者から詳細についてお返事いたします。

生活工房 広報担当 石山 行き
e-mail : info@setagaya-ldc.net